

科目区分	統合分野	授業科目	臨床看護の実践
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：臨床の状況に対応するための判断力と看護実践力を習得する。</p> <p>目標：1 多重課題や突発的な事態の発生時に、適切な判断・対応ができる基礎的知識を理解できる。 2 複数の対象の状況に適した優先順位の決定や対応方法が理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内容	
1 複数対象への看護実践	15	<p>1 複数の対象に看護を提供するときの特徴</p> <p>1) 1日の業務の組み立て</p> <p>2) 優先順位の決定</p> <p>3) 多重課題への対応</p> <p>4) 突発的な事態(時間・環境・思考の中断・切迫)</p> <p>2 複数対象への看護の実際 ※1</p> <p>1) 複数対象(二人)の状況に合わせた看護の優先順位の決定</p> <p>2) 割り込みへの対応 ※2</p> <p>(1) 状況の判断とその根拠</p> <p>(2) 優先順位と対象方法</p> <p>(3) 対応の実施</p> <p>(4) 優先順位と対応の妥当性</p> <p>3) 経過記録の実際 ※1</p> <p>(1) 叙述的記録(SOAP法)</p> <p>(2) 経過表(フローシート)</p>	
評価方法		グループワーク発表、レポート課題	
テキスト		<p>医学書院 看護の統合と実践〔1〕 看護管理</p> <p>医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全</p> <p>医学書院 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術I</p>	
参考資料			
履修上の留意事項		<p>予習・復習をして授業に臨むこと。</p> <p>積極的な参加姿勢で臨むこと。</p> <p>提出物は、提出日時を厳守すること。</p> <p>3年間の学びを統合し、チームで複数患者の看護を考えること。</p>	
備考		<p>※1は演習、※2はロールプレイを行う。</p> <p>複数対象への看護の実際の演習では、二人の患者の事例をもとに、状況に合わせた優先順位の決定、SOAP法・フローシートによる経過記録の記載を行う。</p> <p>割り込みへの対応のロールプレイでは、演習で導き出した行動計画をもとに援助を実施している際に起こる割り込みへの対応を行う。</p>	

科目区分	専門分野	授業科目	救急看護
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的： 救急看護の対象の特徴と救急看護に必要な基礎的知識・技術を習得する。</p> <p>目標： 1 救急看護の役割と救急看護の場について理解できる。  2 救急看護を受ける対象の特徴を理解できる。  3 救急看護の実際に必要な知識・技術を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 救急看護の概念と対象	4	1 救急看護とは 1) 救急看護の定義と役割 2) 救急看護師と救急看護の専門性 3) 救急看護の課題と展望 2 救急医療体制 1) 救急医療システム 2) 救急搬送システム 3) 救命の連鎖 4) メディカルコントロール 3 救急看護と法的・倫理的側面 1) 関連法規と救急看護 2) 倫理面への配慮 4 救急患者の特徴 1) 発症原因の多様性と状況 2) 心理的特徴 5 救急患者家族の特徴 1) 家族システムへの影響 2) 心理・社会的特徴 3) 家族のニーズ 4) 代理意志決定支援	
2 救急患者への看護の実際	10	1 救急看護の実際 1) 一次救命処置 ※1 2) 二次救命処置 (1) 救急患者の観察とアセスメント (2) 緊急度・重症度の判断と治療の優先順位 (3) 補助器具による気道確保 (4) 補助器具による人工呼吸 (5) 補助器具による循環系救命処置 (6) 人工呼吸器の管理 (7) 救急時の検査 (8) 救急医薬品 (9) 体温管理 3) 中毒への対応 4) 熱傷への対応 5) ショックへの対応	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		

テキスト	医学書院 別巻 救急看護学
参考資料	
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	※1は演習を行う。 一次救命処置の演習では、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AED の使用 方法を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	災害看護・国際看護
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	3年次
<p>目的： 災害時及び国際社会での人々の健康と生活の再建・向上にむけた援助方法を理解する。</p> <p>目標： 1 災害が人々の健康に及ぼす影響と看護の役割を理解できる。  2 災害サイクルに応じた看護を理解できる。  3 世界の健康問題の現状と国際救援活動を理解し、国際時代を担う看護師の役割を理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 災害看護活動	20	1 求められる災害看護 1) 近年の国内外の災害 2) 災害看護の歩み 2 災害医療の基礎知識 1) 災害の定義 2) 災害の種類と健康被害 3) 災害医療の特徴 4) 災害時の支援体制と医療体制 5) 災害と法制度 3 災害各期の看護 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4) 災害各期の特徴と各期における保健医療の役割と看護 4 被災者特性に応じた災害看護 5 災害とこころのケア	
2 国際看護活動	9	1 世界の健康問題の現状 2 グローバルヘルス 1) プライマルヘルスケアとヘルスプロモーション 2) 人間の安全保障 3) ミレニアム開発目標 4) 持続可能な開発目標 3 国際協力のしくみ 4 開発協力と看護 5 国際救援と看護 6 21世紀の国際協力の課題	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	医療安全論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：医療安全や感染予防の考え方を理解し、看護職としての責任と役割を果たすための能力を習得する。</p> <p>目標：1 医療安全の意義および、看護師の役割と法的責任を理解できる。  2 看護業務の特性と看護事故の構造および、事故防止の方法を理解できる。  3 医療事故防止の取り組みへの曝露とその予防策について理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 医療安全の基礎	4	1 医療安全を学ぶことの重要性 1) ヒューマンエラーの概念 2) 医療職の安全努力の責務 3) 医療事故における法的責任 2 医療事故防止の考え方 1) 医療事故と看護業務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方 4) 組織的取り組み 5) インシデント・アクシデントの考え方と報告の流れ	
2 医療安全の実際	8	1 業務領域を越えて共通する間違いと発生因子 1) 患者間違い 2) 情報伝達の混乱と情報共有の不足 3) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 2 危険予知トレーニング(KYT)	
3 院内感染予防策の実際	2	1 感染経路別予防策の基礎知識 2 院内感染予防策の実際と看護 1) 接触感染 (MRSA、ノロウイルス、クロストリジウム・ディシフィル) 2) 飛沫感染(インフルエンザ、風疹) 3) 空気感染(結核、麻疹)	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全		
参考資料			
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			

科目区分	専門分野	授業科目	看護管理
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15時間)	開講年次	3年次
<p>目的：看護サービスを効率的・効果的に提供するための看護管理の基礎的能力を習得する。</p> <p>目標：1 組織の一員としての役割と責任、看護管理のあり方について理解できる。</p> <p>2 安全な看護を提供するための組織的な取り組みを理解できる。</p>			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 看護管理 とマネジメント	10	<p>1 看護とマネジメント</p> <p>1) 看護管理学とは</p> <p>2) マネジメントとは</p> <p>(1) マネジメントプロセス</p> <p>(2) マネジメントサイクル</p> <p>3) 看護におけるマネジメント</p> <p>(1) ケアのマネジメント</p> <p>(2) 看護サービスのマネジメント</p> <p>(3) 看護におけるマネジメントの変遷</p> <p>(4) 看護のマネジメントが行われる場</p> <p>2 ケアのマネジメント</p> <p>1) ケアのマネジメントと看護職の機能</p> <p>2) 看護基準と看護手順</p> <p>3) 患者の権利の尊重</p> <p>4) 安全管理</p> <p>5) 看護職の協働</p> <p>6) 他職種との協働</p> <p>7) 情報</p> <p>8) 研究成果の活用</p> <p>3 看護サービスのマネジメント</p> <p>1) 看護サービスのマネジメント</p> <p>(1) 看護管理の定義</p> <p>(2) 看護サービスのマネジメントの対象と範囲</p> <p>2) 組織目的達成のマネジメント</p> <p>(1) 理念の形成と浸透</p> <p>(2) 現状分析：情報収集</p> <p>(3) 看護の組織化</p> <p>3) 情報のマネジメント</p> <p>(1) 情報の種類</p> <p>(2) 情報の管理</p> <p>(3) 守秘義務</p> <p>(4) プライバシーの保護</p> <p>(5) 情報開示への対応</p> <p>4) 技術のマネジメント</p> <p>(1) 技能形成とキャリア開発システム</p> <p>(2) 安全管理とリスクマネジメント</p> <p>5) サービスの評価</p> <p>4 看護をとりまく諸制度</p> <p>1) 看護の定義</p> <p>2) 看護職</p> <p>3) 看護実践の領域と場</p> <p>4) 医療制度</p>	

2 マネジメントに必要な知識と技術	4	1 マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント (1) 組織原則 (2) 集団 (3) マネジメントの基本 2) リーダーシップとマネジメント (1) リーダーシップの定義 (2) 特性理論 (3) 条件適合理論 (4) S L理論 (5) その他のリーダーシップスタイル 3) 組織の調整 (1) 組織文化 (2) コミュニケーション (3) 動機づけ (4) パワーとエンパワーメント (5) コンフリクト (6) 変化と変革 4) 組織と個人 (1) キャリアとキャリア形成 (2) 意思決定と問題解決 (3) ストレスマネジメント (4) タイムマネジメント
	1	試験
評価方法	筆記試験	
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔1〕 看護管理	
参考資料		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。	
備考		

科目区分	専門分野	授業科目	看護研究
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位 (30時間)	開講年次	3年次
目的： 研究の意義や概念を理解し、研究成果を看護実践に活用できる能力を習得する。 目標： 1 看護研究の意義と研究過程の概要を理解できる。 2 ケーススタディの意義と方法を理解できる。			
授業計画			
単元	時間	内 容	
1 研究の意義と過程	23	1 研究の目的 2 研究の成果 3 研究の種類と方法 1) 質的研究 2) 量的研究 4 研究過程 1) 研究課題の明確化 2) 文献検索と文献検討 (1) 意義と種類 (2) 方法 (3) 読み方 (クリティーク) (4) 引用方法と記述 3) 概念枠組みの設定 4) 仮説の設定 5 研究計画書 6 論文の一般的な構成と留意点 7 研究における倫理的配慮 1) 遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利 2) 研究倫理に関するガイドライン 8 研究発表 1) 研究成果を発表することの意義 2) 発表の場 3) 発表方法	
2 ケースレポートの意義と方法	6	1 ケースレポートをまとめる意義 2 ケースレポートの計画と実施 1) 動機・目的の明確化 2) 情報の整理・分類 3) 情報の分析方法 4) 研究計画書作成 5) ケースレポートのすすめ方 6) 考察	
	1	試験	
評価方法	筆記試験		
テキスト	医学書院 看護研究		
参考資料			

履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

## 統合実習

〔2単位 90 時間〕

### 目的

専門知識と技術と態度を統合し、保健医療福祉チームの一員として看護実践が出来る能力を養う。

### 目標

- 1 保健医療福祉チームにおける看護の機能と看護管理の実際を理解できる。
  - 1)保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解できる。
  - 2)看護単位における看護職管理者の役割と機能を理解できる。
  - 3)看護ケア提供システムを理解し、リーダー・メンバーの役割を理解できる。
  - 4)保健医療福祉チームにおける他職種の役割と調整方法を理解できる。
- 2 複数の対象の状態に応じた看護を展開できる。
  - 1)複数の対象の健康状態及び状況を予測したアセスメントができる。
  - 2)看護診断に影響を与える因子を明らかにし、問題の優先順位を明らかにできる
  - 3)複数の対象の状態に合わせて、優先度および安全・安楽や効率を考慮し計画を立案できる。
  - 4)優先度の決定や時間管理をし、複数の対象の意思や状態に合わせて、計画の調整ができる。
  - 5)複数の対象の状態に合わせて、優先度の決定や時間管理をしながら援助を実施できる。
  - 6)対象の意思や状態に応じた安楽の援助及び突発事項への対応ができる。
  - 7)実施した援助を省察し、翌日の計画に反映できる。
- 3 複数の対象の意思や価値観を尊重し、援助関係を形成できる。
  - 1)それぞれの対象に関心を寄せ、対象の示す反応を理解することができる。
  - 2)それぞれの対象を尊重したコミュニケーションが図れ、援助関係を形成できる。
- 4 保健医療福祉チームの一員としての役割を意識し、責任ある行動がとれる。
  - 1)地域を見据えた継続的な療養支援が理解できる。
  - 2)状況に応じて適切かつ適時に報告・連絡・相談ができる
  - 3)主体的な学習の継続ができ、学習成果を看護実践に反映できる。
  - 4)専門職業人として責任ある行動がとれる。

実習時期 3年次